



▲ 総務常任委員会で質問する加治木府議

## 国際金融都市 まずは土台づくり 高齢者の暮らしを便利に タブレット活用で

— 加治木府議の9月定例会の質疑・質問より

加治木一彦府議は10月14日の府議会総務常任委員会で大阪が目指す国際金融都市や、高齢者の暮らしを便利にする「スマートシニアライフ」事業などについて質疑・質問をしました。概要は以下の通りです。

大阪が国際金融都市としてアジアや世界の活力を呼び込むため、まずは2025年大阪・関西万博までの間、土台づくりをしていく、とのことでした。

①大阪を知ってもらうプロモーション ②企業への直接の働きかけ ③進出意向がある企業への伴走支援、の3段階で取り組んでいます。

スマートシニアライフ事業は高齢者を対象にタブレットを貸し出し、行政や民間のサービスを手軽に利用できるようにするものです。2022年度の前半は泉北ニュータウンなどの郊外地域で、後半は大阪市内南部でモデル実施をしています。今後、個人所有のスマート

ホンでも使えるようにし、府域全体への利用者拡大を目指します。

このほか、大阪・関西万博への子どもたちの無料招待、グリーンボンドの発行、大阪の新たな成長分野に関する調査、などを取り上げました。

この日の様子は府議会ホームページの動画配信でご覧いただけます。→



大阪府議会ホームページ  
[http://www.pref.osaka.lg.jp/gikai\\_giji/toppage/index.html](http://www.pref.osaka.lg.jp/gikai_giji/toppage/index.html)

### トピックス 新大阪駅周辺114ヘクタール 都市再生緊急整備地域に

10月28日、新大阪駅を中心に淀川、東淀川の2区にまたがる114ヘクタールの地域を都市再生緊急整備地域とする政令が出されました。(地図)



具体的な完成時期は示されていないものの、民間によるビル建設や南側に駅前広場を設ける計画も浮上しています。同地域に指定されることで高さ制限などの規制緩和や税制面での優遇措置が受けられるようになります。

リニア中央新幹線、北陸新幹線とも新大阪駅に乗り入れる予定で計画が進んでいます。加治木府議は2012年10月の府議会一般質問を手始めに、新大阪駅を中心とするまちづくりを何度も取り上げ、魅力づくりを訴えてきました。



▲ 上空から見た新大阪駅周辺地域

### 活動日誌より

**11月 2** 関西国際空港  
 2025年大阪・関西万博に向け、施設の改修が進んでいます。第1ターミナルは4段階に分けて改修する計画で、国内線エリアの増築など第1段階が10月で終わりました。

国内線の出発口を1か所に集約、保安検査場も効率的に運用できるよう拡張しました。搭乗口近くにも飲食4店舗、物販2店舗を配置し、出発までの時間を楽しめるようにしています。大阪・関西の成長のため空の玄関口となる関西空港の機能強化は不可欠です。



▲ 新しくなった国内線エリア通路

今後は2025年万博に向け、国際線エリアの改修が進められます。利用しやすい空港づくりを進めていきます。



施設改修の説明を受ける公明府議団